

## 式波・アスカO.N.Y. 組立キットの作り方

「式波・アスカO.N.Y. 組立キット」を出来るだけ簡単に作る方法を紹介します。  
有機溶剤を含むラッカー系・エナメル系塗料を使わず、また塗料や道具類も比較的  
手軽に入手出来る物を選びました。

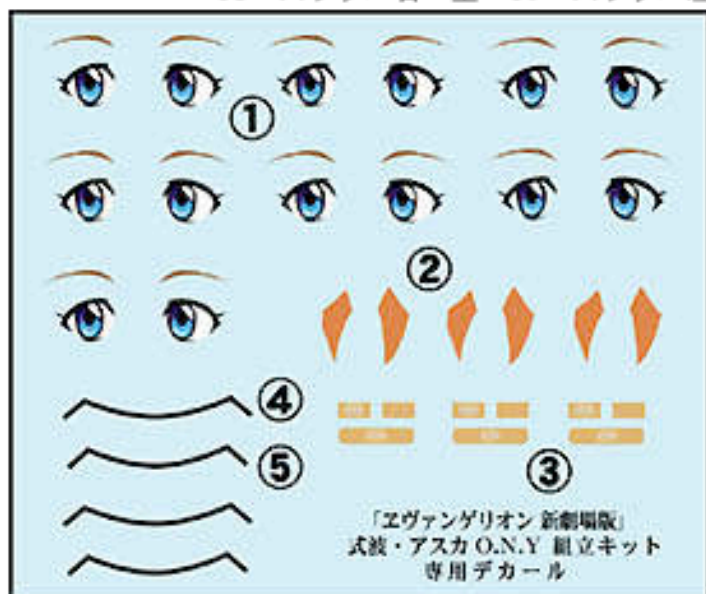
部品を仕上げから、そのまま組み立てる、または少しディテールアップして組み立  
てる方法を解説しますので、本格的に塗装ができる方はそれぞれのスキルで塗装と  
組立を楽しんでいただければ幸いです。



部品の説明 キットに入っている部品の説明です。レジンパーツは全部で40個。他に専用デカールが同梱されています。



- \* 肌色パーツ 1: 頭部 2: 右手 3: 左手 4: お腹 5: 右足 6: 左足
- \* オレンジ色 7: 前髪 8: 後ろ髪 9: ハネ毛・右 10: お下げ・右 11: ハネ毛・左 12: お下げ・左
- \* 紺色 13: 肩紐・右 14: 胸 15: 肩紐・左 16: ショートパンツ
- \* 赤 17: 髪飾り・右 18: 髪飾り・左 19,20: エプロンボタン 21: お玉の柄
- \* 白 22: おたま 23: 小皿 24: ブラパーツ1 25: ブラパーツ2 26: ブラパーツ3  
27: ブラパーツ4 28: ブラパーツ5 29: ブラパーツ6 30: ブラパーツ7 31: 足ピン (裸足用)  
32: 足ピン (スリッパ用) 33: ベース
- \* ピンク色 34: エプロン紐 35: エプロン結び紐 36: エプロン 37: スリッパ左・上  
38: スリッパ右・上 39: スリッパ左・下 40: スリッパ右・下



- \* デカールの説明
- 1: 瞳・眉毛 (白目あり・無し があります)
- 2: もみあげ (左右) 3: 絆創膏
- 4: 髪飾りライン・右 (部品17) 用
- 5: 髪飾りライン・右 (部品18) 用

\* パーツが揃っているか、確認して下さい。

「エヴァンゲリオン 新劇場版」  
式波・アスカ O.N.Y 組立キット  
専用デカール

とりあえず、これだけは用意していただきたい道具類を説明します。



左から：ニッパー または 爪切り カッターナイフ または 切り出し彫刻刀 デザインナイフ  
古歯ブラシ 紙ヤスリ（粗め240番位 中目400番位） 両面テープ（出来れば強力タイプ）  
瞬間接着剤 木工用ボンド 細筆 小皿 ピンセット  
他に、ティッシュペーパー 綿棒 セロハンテープ などをご用意下さい。



今回、いろいろと活躍するアイテムとして、オレンジオイル配合の家庭用洗剤があります。本編で選んだのは、花王のキッチンマジックリン消臭プラス。食器洗い洗剤では成分が弱すぎる様ですので、同様のお掃除用洗剤を選ぶことをお進めします。



研磨用のヤスリは入手可能であればスポンジやすりがベターです。DIYショップの塗料売場などで売っています。FINE（240～320番）ULTRA FINE（400～600番）を用意して下さい。

### ★即席 デザインナイフの作り方

わりばし カッターナイフ 瞬間接着剤 輪ゴムを用意



カッターの刃を一個折り、割り箸の太い方に5ミリ程の切れ目を入れて、差し込みます。瞬着で固め、輪ゴムを巻き付けて、さらに瞬着で固めれば、出来上がり。結構使えます。

## 部品の処理

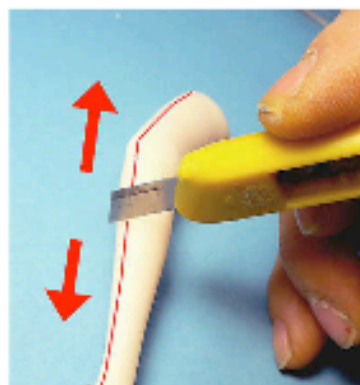
製作の第一歩は、部品の処理です。これがナカナカに面倒くさいのですが、ここを乗り越えれば、行程の七割は済んだも同然です。

以下に各色ごとに部品のランナー（部品の注型のための流し込み口）と主なパーティングライン（注型時に出来る型の合わせ目）を色線で表しました。写真の右側はランナーとパーティングラインを処理して部品がきれいになった状態です。部品の処理の仕方はこのページの下の方で説明します。



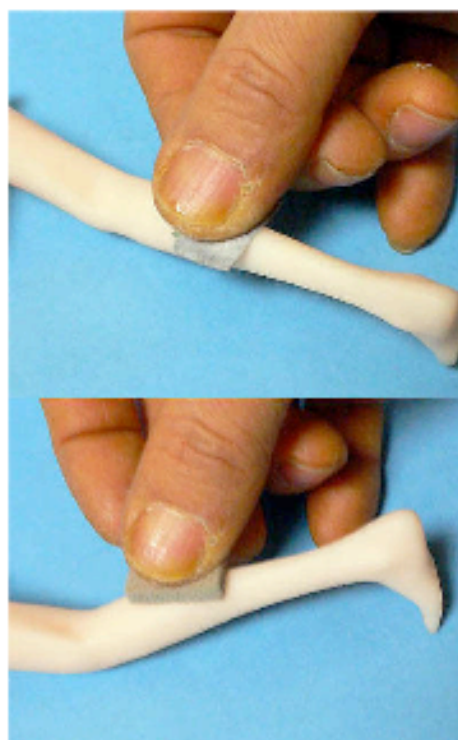
### 処理の仕方 ↓

はじめにランナーをニッパーや爪切りで切り取ります。全部を一度に切り取ろうとせず、少し残しておくことが肝心です。残った部分をカッターやデザインナイフで削り落とします。部品の面をよく見て削り過ぎないように気をつけましょう。



パーティングラインは、ナイフの刃を立ててラインと直角にし、前後のどちらか一方にのみ動かして削り落とします。足の部品のように長いラインはもちろん、小さな部品の短いラインでも、同じように処理して下さい。

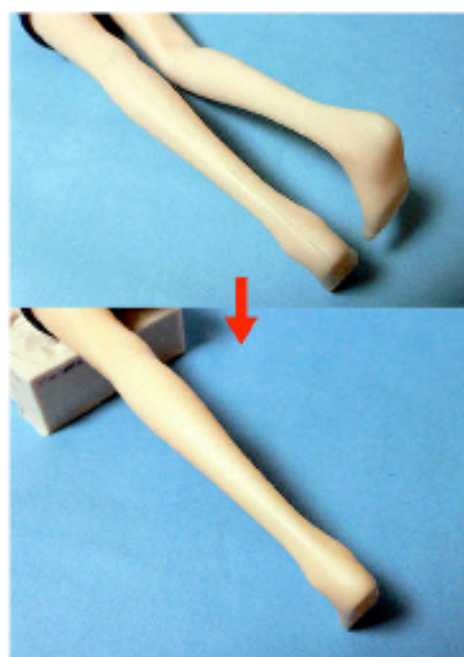
ナイフで削るだけでは、部品は本当にはきれいになりません。さらに、ヤスリを使っての仕上げが必要です。



### ヤスリがけ

ランナーの跡やパーティングラインの部分に荒目～中目の順でヤスリがけをしていきます。段差や筋目が完全に消えるまで徹底的に仕上げるのも良いですが、多少残っていても、それほど気にはなりません。無理をせず自分が納得出来るところまででオーケーです。肌色の部分には、最後に部品全体にヤスリをかけてテカりを消しておくで見栄えが良くなります。

- ・注意・ パーツ36 エプロンの側面（シワが寄っている部分）には、非常に薄くなっている部分があります。削りすぎて穴を開けてしまわないように慎重に仕上げてください。保護のために裏側にセロテープなどを貼って裏打ちしておくとも良いかもしれません。



### 部品の洗浄



レジンキットの部品には、注型をしやすくするためにシリコンオイル離型剤が使われます。油分は塗料の乗りが悪くなる原因になりますので、ヤスリがけをした後にこれを洗い落とす必要があります。専門的には、専用のシリコン洗浄剤や自動車用ブレーキクリーナーを使うことが推奨されますが、有機溶剤は何かと扱いにくいものですので、かわりにクレンザーをつけて歯ブラシでこすったり、食器洗い用の中性洗剤に漬けたり、といった方法が安全です。

本編では、もう少し手っ取り早く、比較的安全な方法として、先に紹介したオレンジオイル配合洗剤を使います。油分の洗浄には優れた効果を発揮しますので、いわば持って来いの洗浄剤です。洗面器などに部品を入れて洗剤をまんべんなく振りかけ、そのまま5～10分置きます。その後、水を入れて何度か取り替え、洗剤を洗い流して下さい。この時、部品を排水溝に流してしまわないように注意が必要です。水洗いが済んだら、ティッシュペーパーなどで水気を取り、新聞紙などの上に広げて乾燥させます。



小さな部品を他の部品と一緒に洗浄すると、必ずと言って良いほど排水溝の藻屑と消えます。それを避けるために、小部品は別に小皿などに入れて洗剤をかけて少し置き、水をつけたティッシュでふき取って下さい。

## 簡単な塗装の仕方

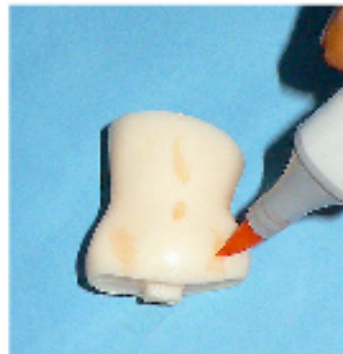


ここではラッカー塗料やエナメル塗料を使わずに、簡単なディテールアップ塗装をする方法を紹介します。使用するのは(株)Too から販売されているコピックマーカー(漫画やイラスト用の画材として有名)および、ペイントマーカー(パイロット社のものや、ガンブラ用のガンダムマーカーが有名)です。式波アスカキットはほぼフルカラーですので、塗装といっても影付けや筋目の強調のみで(スミ入れとも言います)、それなりの見栄えに仕上げることが可能です。そして、ここでまたオレンジオイル配合洗剤を、コピックの除去剤として使います。ガンダムマーカーは専用の消しペン等を使って下さい。普通のペイントマーカーはシンナーを使わないと消せませんので注意が必要。

### 肌色部分の影付け



肌色パーツは透明度のあるレジンを使っていますので、そのままでもある程度の影が付いて見えます。影付けするポイントは、口、耳、おへそ、ひざの裏、手足の指などになります。



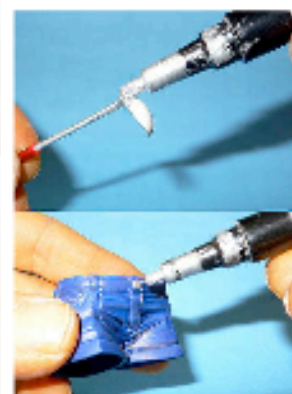
使用するコピックの番号は肌：R02 Flesh または R32 Peach 口：R32 Peachあたりが良いようです。元のレジンの色が薄い場合には、なるべくその色に近い色のコピックを選んで下さい。コピックの色が濃すぎると、レジンに染みついて取れにくくなります。

コピックを影付けしたい部分に塗り、すぐに洗剤をつけた綿棒などで、余計な部分を拭き取ります。綿棒はなるべくこまめに新しいものと取り替えて使って下さい。



### 髪の毛の影付け

要領は肌色部分の時と全く同じです。コピックを塗り、綿棒で拭き取って下さい。髪には、R08 Vermilion が良いようです。髪のように広い面積に影付けをする場合は、綿棒だけでは拭き取りきれないこともあります。ティッシュペーパーに洗剤をしみ込ませて、拭き取って下さい。最後に水拭きも忘れずに。



### 髪飾り

髪飾りのラインには100 Blackを使います。この部品は小さく、一つずつのスミ入れが難しいので、後ろ髪につけた状態で行うのが良いでしょう。髪の方に黒い色が付かないようにセロハンテープなどで縁をガードして下さい。

### スリッパ、エプロン

スリッパ、エプロンのピンク色パーツには、R37 Carmineが良さそうです。スリッパの細かいぼみは浅いため、洗剤で拭き取っても色の差が出にくいことがあります。その時は、上から軽くヤスリがけをして下さい。



### おたま

おたま本体はペイントマーカーかガンダムマーカーでシルバーに塗ります。柄は E59 Walnut など茶型のコピックで塗って下さい。

### ショートパンツ

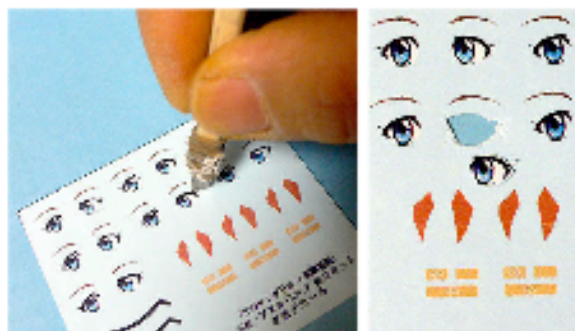
パンツの紺色部分には、T7 Toner grey No.7などグレイ系のコピックで影付けして下さい。ボタンは、おたま本体と同じシルバーに塗ります。



### ビキニ (白い部分)

B00 Frost Blue などのごく薄い水色で、縁取りをするように影付けします。

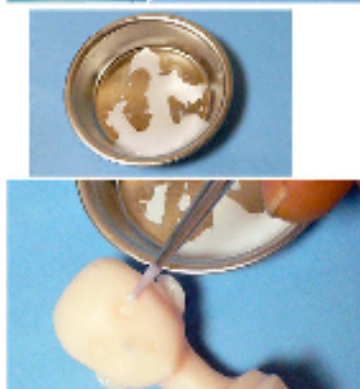
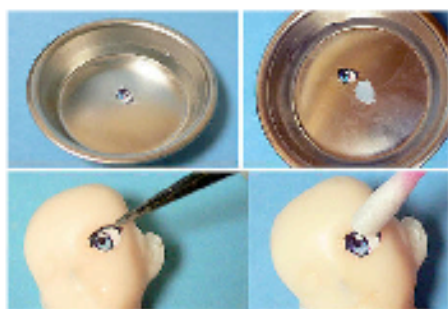
**デカール貼り** キットに付属しているデカールは、水貼りデカールです。普通のプラモデル用のデカールと使い方は同じですが、簡易製作したものですので、図案を切り取って使う必要があります。



まずは、使う図案を切り取る作業です。図案の外側ラインよりほんの少し大きめにカットして下さい。ギリギリで切り取ると、インクが溶けて流れしまいます。

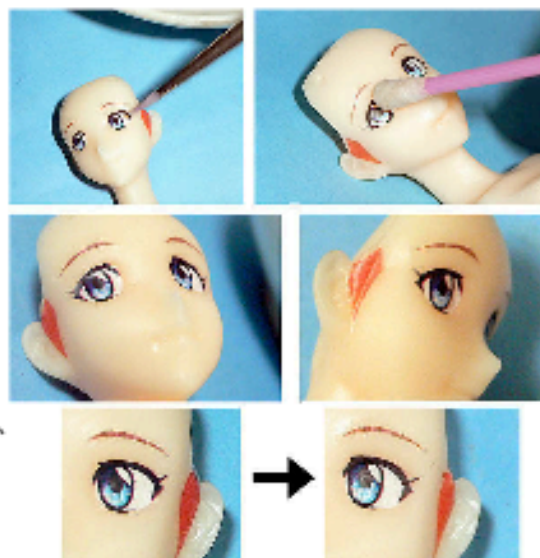


下準備として、木工用ボンドを水で倍に薄めたものを作っておきます。これはデカールを貼りつけるノリの役目をしてくれます。模型店に行くとデカール用のマークセッターというノリ兼柔軟剤が売られていますが、その替わりです。水溶きボンドをデカールを貼る予定の箇所筆で塗っておきます。この作業は、出来れば次のデカールを台紙からはがす行程と平行して行って下さい。デカールをはがれるのを待つ間に、ボンドを塗る、という感じです。



切り取ったデカールを、水を張った小皿に入れます。しばらく（10秒ほど）すると、デカールが台紙からはがれて来ます。それをピンセットでつまみ、良い位置に乗せます。（ピンセットが無ければ細筆の先などに乗せてすくい上げることもできますが、ちょっと技術がいりま

す）水気があるうちはデカールを動かすことが出来ますので、最適の位置を探して下さい。位置が決まったら、綿棒で水気を吸い取ります。デカールには直接触れず、フチに沿わせて水分が綿に吸い込まれるようにして下さい。デカールが貼り付いて動かなくなったら、今度は綿棒で上から軽く押さえます。貼り具合に満足いけば、ここまでで終了です。もし失敗したら、たっぷりの水をつけてこすり落とし、予備の図案で再度トライすることも出来ます。



よりクオリティを高くするため、デカールをパーツに密着させる方法として、オレンジオイル配合洗剤をデカール柔軟剤として使うことが出来ます。模型店では「マークソフター」等の品名で柔軟剤が売られていますが、その代換です。まず、貼り終わったデカールの上に筆で洗剤を塗ります。そのまま、5分間程おいて下さい。次に、綿棒で洗剤を吸い取りながら、少し強めに押しつけます。この時、綿棒を横にずらしてはいけません。垂直に押しつけるようにします。まぶたの段差があるあたりは特に念入りに押しして下さい。柔らかくなったデカールが凹凸に沿って馴染んでくれます。作業が終わったら、しばらくはデカールが柔らかいままですので、乾いて固まるまで待ちます。

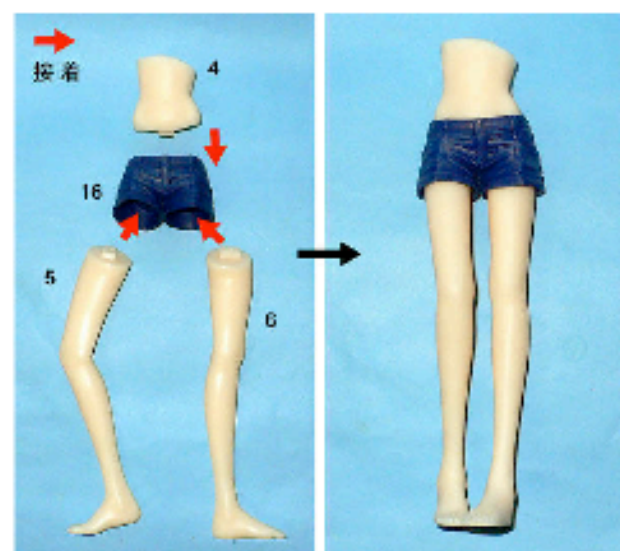
気温や天気にもよりますが、10～15分ほどで良いでしょう。

式波アスカキットには、実験的に製作したインスタントデカールが付属します。

（目、眉、もみあげのみ）まだ実験段階ですので満足いく出来ではありませんが、水貼りデカールが難しいとお考えでしたら、こちらもお試し下さい。

インスタントデカールには表裏があります。裏側には薄くノリがついています。ノリのついている裏面が貼りつける面です。1：貼る位置を決め、デカールを軽く押しつけます。2：ずれないように気をつけながらセロハンテープを上からゆるく重ねて貼ります。3：インクの切れたボールペンなど、先の丸いものでこすりつけます。細かく動かしながら、図案全体をまんべんなくこすります。4：図案が台紙からはがれると全体に色が薄く見えるようになります。デカールが部品の凹凸に沿っていれば、ほぼオーケーです。5：台紙とセロテープをゆっくりはがし、図案が乗っていたら成功。上手く出来ていないときは、また貼りもどして、こすりつけてみて下さい。黒い部分はコピックなどで修正できます。

**組み立て** いよいよ最終工程。塗装やデカール貼りが済んだパーツを組み立てていきます。



**下半身**

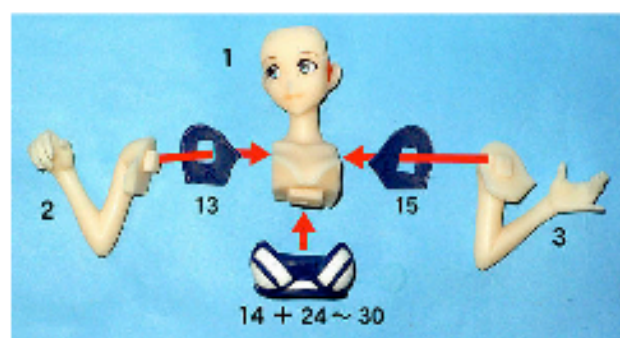
両足、ショートパンツ、お腹を接着します。瞬間接着剤を少量つけて、部品のダボを合わせて貼りつけます。瞬間接着剤はやり直しが効かないから不安だ、とお思いでしたら、替わりに木工用ボンドを使うことも出来ます。ただし、乾くまでにかかり時間が掛かりますので、それまでの間、セロハンテープなどで固定して下さい。木工用ボンドは意外に接着力が強い一方で、部品を痛めずにはがすことも出来るので、やり直しが可能です。

**胸**

胸パーツの穴に、それぞれ対応する小パーツをはめ込みます。それぞれ、ダボの形を換えてありますので、位置を間違えることはありません。瞬間接着剤で接着します。



おたまと小皿は両面テープで、または接着してもオーケー。



腕のダボをブラ紐の穴に通して上半身に接着します。

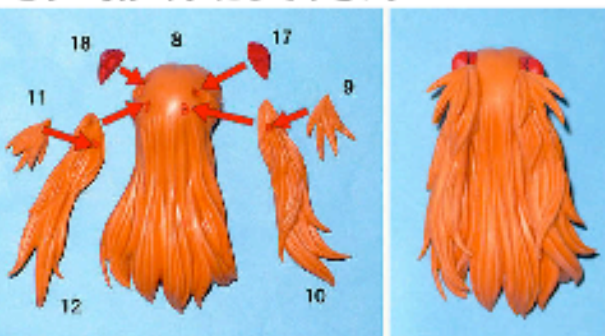


**上半身**

頭部、胸、両手 および左右の肩紐を組み立てます。肩紐パーツにはL Rの別が彫りつけてあります。また、左右の腕のダボは対応する肩紐の穴にぴったりはまる様になっています。ここも全て接着して、上半身を一体に組み上げます。

**おたまと小皿**

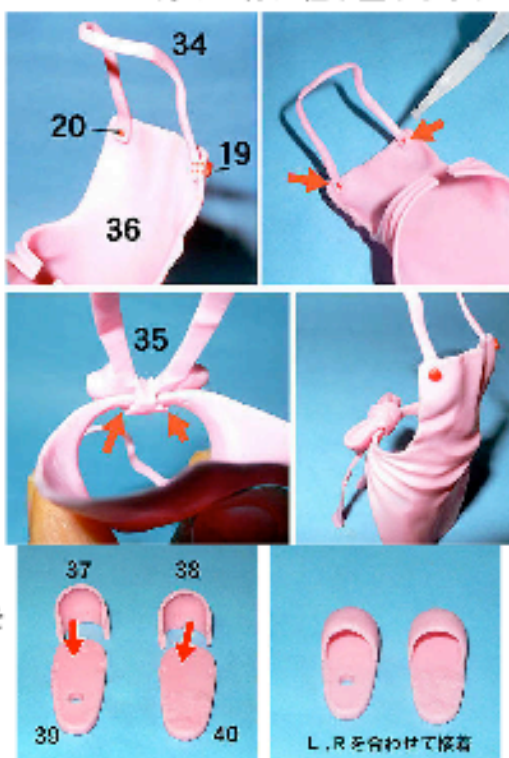
おたまの本体と柄を接着します。柄に空いている浅いくぼみは、本体の棒の直径よりやや小さいので、棒の先端の方をヤスリ掛けして少し細くして下さい。柄の平らな面が、正面に来るようにします。おたまも小皿も両面テープを小さく切って手に貼りつけると良いでしょう。瞬間接着剤を使う場合はゼリー状タイプにして下さい。



**髪** 後ろ髪に、髪飾り→おさげ→ハネ毛の順で接着します。ここも、ダボをそれぞれ違う形にしてありますので、間違った部品がつくことはありません。

**エプロン** エプロンの部品を組み立てます。パーツ36上端の穴に19,20を通し、裏から34をはめます。19,20はほとんど同じ形ですのでどちらがどちらでも構いません。19,20を先に接着してから34をはめて接着すると作業が楽です。次に、後ろ側に35をはめ込み、やはり接着します。

**スリッパ** スリッパの上部と下部を接着します。左右の別がL Rで記されていますので、それぞれ合わせて貼りつけて下さい。



L,Rを合わせて接着



**全体の組み立て** 先に、写真のように後ろ髪とお腹の接合面に両面テープを貼って下さい。  
出来れば強力タイプのものを使って下さい。紙用の弱いものを使う場合は、3枚ほど重ねて下さい。



### 上半身とエプロン

エプロンをつけないで飾る場合は、そのまま上半身をおなかに乗せ、髪を取り付けて下さい。

1: エプロンを写真のように横向きにして、紐の中に頭を通します。

2: 鼻がすこし引っかかりますが、気をつけて首の下まで下げます。レジンには弾力がありますので、よほど無理をしなれば折れません。

3: 左手を引っかけないように気をつけながら時計回りにエプロンを回し、前面に持ってきます。

4: 写真のようになればオーケーです。

5: エプロンの輪の部分にお腹を通し、上半身とお腹のダボを合わせてはめ込みます。

6: 写真のようにピッタリはめて下さい。7: 後ろ髪をはめ込みます。8: 最後に前髪をつけます。

前髪を止めるための両面テープは、前髪の凸ダボの方につけた方が楽かもしれません。

9: 本体の完成です。おたまは最後に持たせると作業が楽です。



### ベースとスリッパ

最後に、ディスプレイ用のベースに本体を取り付けます。足ピンは31の短い方が裸足用、

32長い方がスリッパを履かせる時のものです。ピンはベースの穴にはめ、ベース底面と面一

(つらいち)になるようにして下さい。左足、およびスリッパの裏側に両面テープをはります。裸足で飾る場合は、31のピンを差したベースにそのまま左足裏の穴を合わせて立たせて下さい。スリッパを履かせるには、まず左側(穴あき)を、32のピンを差したベースに固定します。スリッパの上にピンの頭が5ミリほど出るようにして下さい。次に左足をつま先から滑り込ませるようにしながら、足裏の穴とピンの頭を合わせて接地させます。

最後に右側をはめ込みます。隙間が狭く、はめ込み難いですが、やや無理矢理に滑り込ませて下さい。この部分がキツイことで、本体をベースに固定する役目も果たしています。

右のスリッパはややキツイですが、すべらせてはめ込んで下さい。